



サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

今月、私たちは、あらゆる祝いの中でも最も大なる祝い、ご復活を迎えます。

私たちの信仰の中心には、単純でありながら爆発的な力を持つ真理があります：それは、キリストはよみがえられた、という真理です。このただ一つの出来事が世界を変容させ、非凡なことを行うようふつうの人々を遣わしました。空の墓から、今日も私たちを衝き動かすミッションが始まったのです。

復活は、単なる過去の記憶ではありません：心に燃える生きた炎です。心にしまっておかれるのを拒む喜びです。パウロや最初の宣教師たちのように、私たちもただ一つのメッセージを携えて境界線 - 地理的、文化的、また心の境界線を越えて行くよう、衝き動かされます：イエスは生きています、と。

なぜ出かけて行くのでしょうか？

なぜ私たちは宣教師であり続けるのでしょうか、道は長く、苦勞も多いのに？

なぜなら、復活の喜びが私たちのうちに燃えているからです。この喜びが、私たちの日々の生活を朝から晩まで満たしますように - 私たちの宣教の働きのなかで、共同体のなかで、友情において。私たちの生き方が、心を尽くして信じていることを静かに宣言しますように：キリストは復活された、まことに復活された、と。

Sathish Paul

■ 広報部門メンバー
サティシュ・ポール神父, SDB

私たちは司祭のために祈っているのでしょうか？

教会で、サレジオ家族で、私たちは青少年のため、特に最も貧しい子ども・若者たちのためにたくさん祈ります。それはとても良いことです。青少年は私たちの「使命を与えられている分野」です。しかし、沈黙のうちに犠牲をささげて献身し、教会とサレジオ会のこの使命を支える人々を、私たちは時に忘れることがあります。それは司祭たちです。

今月、教皇レオは、司祭のため、特に召命や奉仕職の中で、辛い、困難な時を経験している司祭たちのために祈るよう私たちを招いています。今月のあいだ、**疲れや孤独、危機の時を経験している、あるいは沈黙のうちに苦しんでいる司祭たちのために、たゆみなく祈りましょう。** 宣教地に暮らす司祭たちのことが思い浮かびます。大きな距離にへだてられた僻地において、財源・物資はわずか、背負う責任は大きなものです。秘跡を執り行い、共同体を形成し、教育と福音宣教に取り組み、さまざまなプロジェクトを遂行しています。人々を励まし、耳を傾け、癒します。司祭たちには、神の恵みがあります。[身分に備わる恵み]です。確かにそうです、しかし**司祭たちは弱さも持っています：彼らは人間であり、感受性があるのです。** 私たち皆と同じように、司祭たちにもそれぞれ物語があり、危機があります。時に傷つき、理解されず、裁かれ、聞いてもらえないと感じています。

司祭のために祈りましょう。司祭に近づき、支えの言葉を耳元にささやきましょう。苦しむ司祭のために祈ることで、私たちは宣教の使命をより良く生きるようになります。なぜなら、司祭を支えることで教会の使命を支えるからです。**寄り添い、親しさをもって、司祭たちと共に歩みましょう。** 健康、喜び、忠実を司祭たちに与えてくださるよう、主に願い求めながら。なぜなら、その結果、司祭たちが私たちの祈りによって愛され支えられていると感じるなら、教会は新たな空気を呼吸し、心は広がり、ミッションはさらに遠くまで届くからです。

■ 宣教顧問 ホルヘ M. クリサフッリ神父, SDB

振り返りと分かち合いのために

- 自分の人生に影響を与えた司祭はいますか？ その司祭に感謝を伝えたり、彼のために祈ったことはありますか？
- 私たちは祈ってほしいと司祭に願うことがよくあります - しかし、苦しんでいるかもしれない司祭のために、最後に祈ったのはいつでしょうか？



4月 サレジオ 宣教の 祈りの意向



司祭

危機を経験している司祭のために (教皇レオ十四世の祈りの意向)

召命において危機の時を経験している司祭のために祈りましょう。必要としている同伴を見だし、共同体が理解と祈りをもって支えますように。

危機を経験している司祭を支えることについて、 信徒の視点から



ローレン、教会やサレジオ会の司牧活動の経験から、どのような要因や状況が司祭を召命の危機に至らせるのでしょうか？ どのようなプレッシャーや問題に司祭は特に傷つきやすいと思いますか？

司牧の生活には、数多くの挑戦があります。神に仕え、他者に仕えるために絶えず自分をささげる生活です。世界は緊張が高まり、分裂と不安をあおる言葉が多く飛び交っているように感じられます。若者が前にする問題、したがって求められる働きは、圧倒されるような大変さです。私たちは、周りで渦巻く世界に影響されないよう、平和と内面の自由を培うために絶えず努力しなければなりません。

祈りの意向は、危機にある司祭が必要とする「同伴」と「理解」に触れています。信徒の視点から、共同体（小教区、サレジオ家族、個々の信徒）には、困難を経験している司祭と共に歩み支える、どのような具体的な方法があると思いますか？

私たちは皆、人間です。私が何度もおかした失敗は、神父様を台座に据えてしまい、神父も人間であることを忘れてしまったことです。私たちは皆一緒にこのサレジオの旅を歩んでいます。共に歩む同伴が相互的であることが重要です。司祭が同伴することもあるし、別の時には、信徒が司祭に同伴することが必要な場合もあります。最も重要な同伴の方法は、聞くことによるものです。実際に言葉で伝える必要があります：「ここにいます、あなたのことを気にかけています、あなたのために時間を取ります、話を聞く用意があります」と。私たちはたびたび思い込んでいます。「必要なら自分がここにいることはわかっているはず」と。しかし、危機にある人のためには、それを言葉に出し、支えたいこと、祈っていることを伝えるのは大切なことです。

予防に目を向けた場合、そもそも司祭が危機に陥らないように、その助けになることはあるのでしょうか？

危機の時は、神の賜物でありえます。私たちの人生のあらゆる時、人とのあらゆる関わりは自分自身について、この世界について、神について学ぶ時として見ることができます。私たちは危機を避けようとするよりも、危機が訪れたときに踏みとどまる力、危機に対処する信仰と平静な心を養うことが大切なのだと思います。司祭にとって実際の備えとなるのは、司祭の生活で最も大切な事。聖体祭儀、祈り、黙想の大切さ、霊的指導への忠実な信心を深めることです。これらのことを日常的に培っているなら、危機が訪れたとき、司祭は、前進する道を支える実践を手に行っているのです。私たちは危機を予防するのではないと思います。危機は人生の最も大切な一部分になりうるからです。



ローレン・ヒチャーバ

私はドン・ボスコのサレジオ修道会、オーストラリア・太平洋管区 (AUL) で18年働いています。管区のサレジオ宣教ボランティア・プログラムである「カリエロ・プロジェクト」の責任者を務めています。また宣教促進担当者も務めています。神学、演劇、教育、国際開発の学位を持っています。生活の中で私にはさまざまな大切な役割がありますが、いちばん大切なのは、3人の素晴らしい子どもたちとザンビアから養子に迎えた姪と甥の母親の役目です。わが家はしっちゃかめっちゃかなオラトリオのようですが、毎瞬間が喜びです！



カトリック司祭が司祭職をやめる原因は？

独身と孤独 — 深い孤独、孤立感、親密な関わりと家庭生活を求めて。

アイデンティティーと役割の混乱 — 思い描いていた司祭職と日々の現実の間の緊張の高まり。

組織への幻滅 — 教会の統治の問題、透明性の欠如、聖職者主義、虐待問題への対応などに対する幻滅。

心理的、感情的な消耗 — 絶えず人々の求めに応じ、問題に対処し、複数の小教区を兼務することなどによって、疲労困憊し、燃え尽きに至る。

神学的、教義的な疑い — 特定の教会の教えへの深刻な疑い。特に性、ジェンダー、権威について。

支え、同伴の欠如 — 司教や修道会の長上の支えがないと感じる。有意義な兄弟的共同体の体験、霊的指導、あるいは叙階後の生涯養成が不足している。